

県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定等の取扱いについて

県央ブロックごみ処理施設の整備予定地については、平成29年5月に選定した整備候補地4か所について、地域住民や関係者の意見等、整備の確実性（地権者の状況など）、整備運営上の諸条件（整備費用など）等の要素を総合的に判断し、選定することとしている。

県央ブロックごみ・し尿処理広域化推進協議会では、これまで、住民説明会等を通じて寄せられた地域住民や関係者からの意見等の集約や、候補地ごとのコスト算定等を進めてきたところであり、今般、これらの要素を基に、整備予定地の選定等の取扱いについて協議するものである。

1 地域住民や関係者の意見等

(1) 盛岡南インターチェンジ付近

商工関係団体から地域振興の提案を添えて施設の誘致要望があった場所であるが、平成29年9月、周辺町内会や農業関係団体で構成する組織から施設整備に反対する要望書が提出されるなど、地域住民と対話することが難しい状況である。

(2) 都南工業団地付近

1町内会からの整備計画の撤回を求める要求書の提出（平成31年1月）、地域住民で組織する団体からの反対要望書（反対署名付き）の提出（平成31年2月及び3月）、平成31年1月及び2月の住民説明会での強い反対意見など、住民説明会の進捗に伴い、広域化や施設整備に反対する意見が明確になってきており、地域住民との対話を継続することが難しい状況である。

(3) 盛岡インターチェンジ付近

土淵地区においては、平成30年5月に「土淵地区の均衡あるまちづくり」の要望を受けたことを機に、盛岡市主催の懇談会を通じて意見交換を重ね、平成31年2月には、地域住民の参加の下、立地環境が類似している「秋田市総合環境センター」の視察見学会を開催している。

全体的に、施設整備や地域振興・まちづくり等への関心・期待が高くなってきており、今後も地域住民や関係者との話し合いを継続していくことが可能であるが、地域には反対の意見もあることを踏まえ、引き続き、地域住民や関係者との話し合いを継続していく必要がある。

一方、太田地区においては、平成31年3月に開催した第1回住民説明会において、施設整備に反対する意見や、説明の継続を求める意見が寄せられていることなどを踏まえ、環境負荷の低減に関し最新の知見と技術が導入された施設の特徴などについて、丁寧に説明しながら意見交換を重ねていく必要がある。

(4) 盛岡市クリーンセンター敷地

広域化に反対する団体から当該地への整備に反対する要望書が提出され、施設整備への反対意思を明確に示している地域・町内会があるなど、住民説明会が中断する状況である。

関係町内会に対し、盛岡市との間で締結している「盛岡市クリーンセンターに関する覚書」に基づく協議を申し入れたが、協議を進めることができていない。

関係町内会や関係者の多くが施設整備に反対の意向を示しており、覚書に基づく協議や、住民説明会の開催等に向けて協議・調整を進めることが難しい状況である。

2 整備の確実性

(1) 盛岡南インターチェンジ付近

地権者を含む地域住民や農業関係団体からの反対の声が強く、施設整備への理解・協力が得られる可能性は低い状況下で、整備を進めることは困難である。

(2) 都南工業団地付近

これまで反対意思を明確に示している地権者はいないが、候補地周辺では施設整備や広域化に反対する意見が強くなってきており、地域住民や関係者の理解・協力が得られる可能性が低い状況下で、整備を進めることは困難である。

(3) 盛岡インターチェンジ付近

当該地が旧上厨川土地区画整理事業跡地であり、地権者の中には、ごみ処理施設の整備を含め、土地利用の推進を望む意見がある。

懇談会において、旧土地区画整理事業跡地の利活用（案）を示すとともに、具体について地権者等との話し合いを継続することを説明しており、さらなる理解・協力が得られるよう、協議を行っていく必要がある。

(4) 盛岡市クリーンセンター敷地

強い反対意見が出されている地域があり、また、覚書の協議も進めることができず、事業説明も実施できない状況下で、整備を進めることは困難である。

3 整備運営上の諸条件

(1) 盛岡南インターチェンジ付近

地形が平坦であり大規模な造成工事を必要しないが、現況が農地（水田）であるため土盛りが必要となる。近接箇所に特別高圧送電線が架線されており、発電に伴う受送電が容易である。各市町からの運搬距離を勘案し、収集運搬中継施設2施設が必要となる。

総費用（ごみ処理施設及び収集運搬中継施設の整備費並びに平成41年度から55年度までの施設管理費及び収集運搬経費をいう。以下同じ。）は、約703億6千万円と見込まれる。

(2) 都南工業団地付近

傾斜地であり大規模な造成工事が必要となり、県道からの取付道路の整備や、発電に伴う受送電のための特別高圧送電線の架線が必要となる。収集運搬中継施設2施設が必要となる。

総費用は、約722億2千万円と見込まれる。

(3) 盛岡インターチェンジ付近

地形が平坦であり大規模な造成工事を必要とせず、近接箇所に特別高圧送電線が架線されており、発電に伴う受送電が容易である。収集運搬中継施設2施設が必要となる。

総費用は、約688億1千万円と見込まれる。

(4) 盛岡市クリーンセンター敷地

新たな造成工事を必要としないが、発電量の増加に伴う特別高圧送電線の架線が必要となる。収集運搬中継施設3施設が必要となる。

総費用は、約738億1千万円と見込まれる。

4 選定要素（上記1～3）のまとめ

- (1) 「盛岡南インターチェンジ付近」については、候補地全域が農業振興地域である立地環境において、周辺町内会に加え、農業関係団体からも施設整備に強く反対する意見があり、地域住民や関係者の理解・協力を得て事業を進めることが難しい状況である。
- (2) また、「盛岡市クリーンセンター敷地」についても、施設整備に反対する意見が多く、地域に対する事業説明や話し合い、覚書に基づく協議を進めることができないなど、地域住民や関係者の理解・協力を得て事業を進めることが難しい状況である。
- (3) これらのことを踏まえ、平成30年8月に「都南工業団地付近」及び「盛岡インターチェンジ付近」を地域住民や関係者との協議を優先的に継続実施する候補地とし、以後、当該2候補地での住民説明会等を開催してきたところである。
- (4) 「都南工業団地付近」については、住民説明会の進捗に伴い、施設整備に反対する意見が明確になってきており、住民との対話を継続し、整備への理解を深めることが難しい状況となっている。また、当該候補地については、施設整備に当たり、大規模な土地造成、インフラ整備、特別高圧線の架線等のための費用が必要となる。
- (5) 「盛岡インターチェンジ付近」について、土淵地区においては、懇談会や視察見学会を通じ、ごみ処理施設の整備に対する理解が進み、廃棄物エネルギーを利活用した地域振興・まちづくり等への期待が高まっているなど、地域と協働し「ふれあいと賑わいのあるまちづくり」に取り組む環境が整ってきており、この関係性を深めていく必要があるが、地域内には反対意見もあるため、今後も丁寧な説明が必要である。整備の確実性に関しては、旧上厨川地区土地区画整理事業跡地の土地利用推進の観点から、地権者の理解・協力が期待されるが、今後も協議が必要である。

また、太田地区においては、施設整備に対する反対意見や、説明の継続を求める意見が寄せられていること等を踏まえ、同地区に対し、丁寧に説明しながら意見交換を重ねていく必要がある。

なお、総費用は、4候補地の中で最も低いと見込まれる。

(附属資料)

- 別紙1 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定要素について
- 別紙2 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る地域住民の意見等
- 別紙3 県央ブロックごみ処理施設整備予定地の選定に係る概算事業費（整備候補地別）